

# 農業委員会だより

第99号  
 令和7(2025)年  
 12月1日発行  
 <編集・発行>  
**大田原市農業委員会**  
 大田原市本町1-4-1  
 TEL.0287-23-8716

E-mail/nougyou@city.ohatawara.tochigi.jp



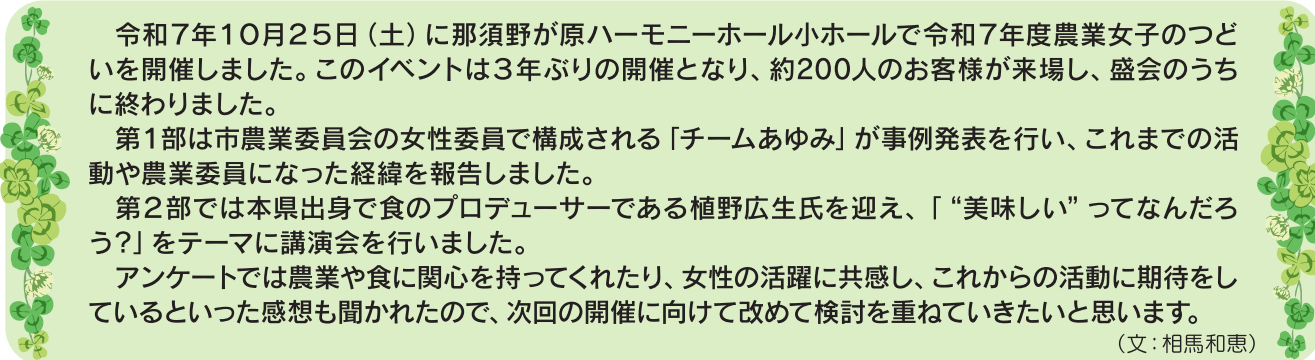
令和7年10月25日(土)に那須野が原ハーモニーホール小ホールで令和7年度農業女子のつどいを開催しました。このイベントは3年ぶりの開催となり、約200人のお客様が来場し、盛会のうちに終わりました。

第1部は市農業委員会の女性委員で構成される「チームあゆみ」が事例発表を行い、これまでの活動や農業委員になった経緯を報告しました。

第2部では本県出身で食のプロデューサーである植野広生氏を迎え、「“美味しい”ってなんだろう？」をテーマに講演会を行いました。

アンケートでは農業や食に関心を持ってくれたり、女性の活躍に共感し、これからの活動に期待をしているといった感想も聞かれたので、次回の開催に向けて改めて検討を重ねていきたいと思ひます。

(文:相馬和恵)



**ホーム  
 ページの  
 ご案内**

大田原市ホームページ内の  
 キーワード

<https://www.city.ohatawara.tochigi.jp>

**農業委員会**

**サイト内検索**

で「農業委員会」ページを  
 ご覧いただけます

**チームあゆみ**

**サイト内検索**

で「チームあゆみ」ページを  
 ご覧いただけます

QRコードからもいただけます

**「チームあゆみ」**

大田原市女性農業委員  
 グループの活動を紹介  
 しています



## 大田原市農業委員会の委員、農地利用最適化推進委員の推薦・応募を行います

## 届出受付期間 令和8年2月2日(月)～3月2日(月)

現在の大田原市農業委員会の委員、農地利用最適化推進委員は、令和8年7月19日に任期満了となりますので、次のとおり募集いたします。

## 1 農業委員

募集人数：17名

任用期間：令和8年7月20日～令和11年7月19日（3年間）

職務内容：農地の権利移動や転用に係る許認可業務、担い手への農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、農業新規参入の推進、法人化その他の農業経営の合理化、農業に関する調査及び情報提供、地区会議での進行役等

選考方法：提出された書類をもとに選考し、市長が議会の同意を得た上で任命します。

## 2 農地利用最適化推進委員

募集人数：43名（市内を43地区に区分し、区域を単位として募集）

大田原	金田	親園	野崎	佐久山	湯津上	黒羽	川西	両郷	須賀川
3名	8名	4名	2名	5名	6名	4名	3名	5名	3名

任用期間：令和8年7月20日～令和11年7月19日（3年間）

職務内容：担当区域内における担い手への農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、農業新規参入の推進及びそれに伴う現地での調査・指導、地区会議での進行役等

選考方法：提出された書類をもとに選考し、農業委員会が委嘱します。

## 3 推薦・応募方法（1、2ともに同じ）

（1）個人（3人）による推薦

（2）団体による推薦

（3）自ら応募 の3つの方法があります。

それぞれの届出様式に必要な事項をご記入の上、農業委員会事務局へご提出ください。

様式は、農業委員会事務局・湯津上支所・黒羽支所の窓口に備えるほか、ホームページからもダウンロードできます。（<https://www.city.ohatawara.tochigi.jp/unit/committee/nougyou/>）

※1月中旬ごろから

推薦方法・報酬等詳しい内容は農業委員会事務局(23-8716)へお問い合わせください。

## 8月

## 農地パトロールの実施

令和7年8月18日・19日・22日、私を含む農業委員2名と農地利用最適化推進委員3名で大田原地区において農地パトロールを実施しました。

現地では、農地の耕作状況、雑草の繁茂、境界の明確さなどを確認し、農地の適正利用状況を丁寧に見て回りました。その中で、所有者不明となってしまったことで耕作が放棄されている農地や、耕作困難な方が相続されたことにより管理されずに放置されている農地が確認されました。

また、担い手不足の影響も感じられる事例がありました。具体的には、農地が一部の担い手に過度に集中し、管理が追いつかず近隣住民から苦情が寄せられた箇所もありましたが、パトロール時には適切に管理されており、努力されている様子が伺えました。今後、同様の課題は市内全域でも増えていくことが予想され、農地をどう維持・活用していくかが重要な課題です。

今回のパトロールを通じて、地域一体での農地の管理と、所有者・利用者への情報提供・意識啓発の必要性を改めて感じました。今後も継続的なパトロールと対話を重ねながら、健全な農地利用の実現を目指してまいります。

（文：越沼良）





8月19日

## 農業者年金加入推進特別研修会に参加して

令和7年8月19日に農業者年金加入推進特別研修会が栃木県JAビルで行われ、各市町農業委員や事務局、JAの職員が農業者年金の加入推進のため、研修を受講しました。

研修会の前段として令和6年度に優秀な加入成績を取めた団体に功労者表彰が行われ、大田原市は加入推進部長である唐橋委員が出席し、2年連続での表彰を受けました。

研修では農業者年金基金の職員が制度の説明を行ったほか、新潟県長岡市農業委員である佐藤佑美氏が「加入者から見た農業者年金の魅力」を発表しました。受講者の皆さんは、国民年金だけでは将来に不安を感じている農業者の方々の助けになれるようしっかりと聞いている様子でした。(文：事務局)



9月2日

## 農業委員・農地利用最適化推進委員研修会に参加して

農業委員・農地利用最適化推進委員研修会が栃木県教育会館で開催されました。当日は全国農業新聞普及優良農業委員会の表彰が行われ、大田原市農業委員会は優良賞を受賞しました。

続いて、大阪経済大学情報社会学部教授の山本公平氏が「地域農業のこれからを支える集落営農と後継者育成の実践」と題して講演されました。

地域農業を持続的に発展させるための集落営農法人について、農作業の共同化や機械の共同利用で経営の効率化を図り、安定的な経営を確立することで、新規就農者や多様な人材の受け入れが可能になり、持続的な経営が見込まれることや、次世代へ継承する体制づくりと地域間の連携の必要性などについては、大変参考になりました。

今後、地域農業の発展を考えるためには、集落営農についても視野に入れ、活動していきたいと思えます。(文：植竹裕子)



### 委員活動報告

10月16日

## とちぎ女性農業委員の会研修会に参加して

令和7年10月16日に栃木県総合文化センター3階特別会議室において、とちぎ女性農業委員の会研修会が行われました。今回の研修会ではとちぎマーケティング協会の熊田代表理事長や足利市農業委員の今泉文子氏が「遊休農地対策におけるユース栽培と枝物栽培の検討について」と題し、事例発表を行いました。

栃木県の女性農業委員登用率は7年連続全国1位を維持しており、大田原市でも登用率は35%を超えて県内でも上位の登用率ですが、来年は県内で農業委員の統一改選が行われるので、更なる女性登用率の向上を目指すことが示されました。とちぎ女性農業委員の会では、興野(きょうの)会長を中心に各市町で精力的に要望活動が行っており、今後も女性農業委員の活躍が増えることが期待されます。(文：事務局)



10月23日

## 関東ブロック女性農業委員等研修会に参加して

令和7年10月23日に千葉県千葉市中央区にある千葉県教育会館大ホールにおいて、関東ブロック女性農業委員等研修会が開催されました。この研修会は関東の1都7県の女性農業委員が一堂に会して行われ、大田原市からは女性農業委員6名が参加しました。

事例発表では千葉県八千代市農業委員の黒崎玲子氏が「かあちゃんの笑顔が世の中を救う」との題でご自分の就農から農業委員になったきっかけ、1期目では女性農業委員が1人だった頃の苦悩、今では4人に増え、一緒に活動できる安心感等を話されました。特別講演では経済ジャーナリストの萩原博子氏が「家計の視点から考えるこれからの食」との題で年金や老後の話を中心に、お金にまつわる色々な話を楽しくご講演されました。

最後には来年の会場である神奈川県的女性委員組織代表の方が意気込みを語られ、ここまで繋いできた女性農業委員の登用や活動の火を消さないように頑張りたいと思いました。(文：古沢成子)



連載

よろしくお願ひします

第15回 阿久津 清尚さん(中田原)



今回は、大田原市中田原で露地ねぎの生産に取り組んでいる「阿久津 清尚」さん(24歳)をご紹介します。

現在阿久津さんは水稲14ha、露地ねぎを3.4haほど作付けしています。元々実家が農家だった阿久津さんは物心ついたころから田んぼに行っており、自分も大きくなったら農業をやるんだろうなと思っていたそうです。農業大学校で2年間農業を学び、今年で就農4年目になる阿久津さんは、元々水稲農家だった実家で、全作業が機械化でき、稲作と輪作できるうえ、周年で収穫ができるねぎに着目し、作付けを決心しました。1年目は機械の問題や就農したてだったこともあり、作業時間が大幅にかかってしまうなど、上手くいかないこともありましたが、今はJAや直売所のほかに市内の飲食店にも卸しています。今年は夏が長いせいか、除草作業が一番大変ですが、ほ場を一生懸命管理し、真っ白なねぎができるとやりがいを感じているそうです。

今後も経営状況を見ながら、面積の拡大や新たな作物にも挑戦していきたいと話す阿久津さんは中田原地区の担い手不足にも一役買っており、地域計画の話し合いの場にも多く顔を出してくれています。また、トレーニングファームとして、新規就農者のお手伝いや相談に乗れたらと話す阿久津さんは間違いなく大田原の農業を支える担い手となってくれると感じました。(取材:事務局)

農業者年金で豊かな未来を



積立方式や節税効果がある農業者年金の加入をぜひ検討してください!!

阿久津剛志さん(43)(奥沢)

同じ梨農家である友人の勧めから令和5年3月に農業者年金に加入した阿久津さんは現在、梨170畝・水稲80畝の作付を行っています。農業者年金は積立方式なので、将来の貯蓄になり、保険料は全額控除を受けられるため、節税に効果あるので皆さんにおススメしたいとのこと。

加入のご相談は農業委員会事務局またはJA窓口まで

編集後記



今年も残すところ、あと一月となりました。今年には本当に色々なことがありました。令和の米騒動による備蓄米の放出や世界的に記録的な暑さとなり、日本でも猛暑日が過去最多となりました。来年は、午年です。健康や豊作を象徴する縁起いい動物ですので、皆様にとって良い一年になりますように!!

編集委員 渡邊和子

【農業委員会だより編集委員会】

(農政班) 助川悦夫・阿見芳・渡邊和子・笹沼保治・屋代幸子・津久井勝之・植竹裕子・越沼良

レシピ きのこのおでか



材料(分量1升分)

Table with ingredients and quantities: もち米 1升, A: 干しいたけ 50g, マイタケ 1P, しめじ 1P, 人参 200g, ごぼう 300g, 油揚 2枚, 生姜 50g, B: 麵つゆ 100cc, 醤油 100cc, 味醂 100cc, 油 少々, 本だし 少々

- ①もち米は水洗し1晩水につける。
②干しいたけは水でもどす、油揚げは湯抜をする。(もどし汁100ccBと一緒に使う)
③生姜は細千切に、ごぼうはさがきに切る。人参は太千切にしマイタケ、しめじは適宜に切る。
④刻んだAの材料を油で炒める。
⑤調味料Bを入れ汁が残るよう中火から弱火で煮る。(しいたけのもどし汁100cc位も入れる)
⑥もち米はザルにあげ蒸し器で30~40分位蒸し芯がなくなったらボウルに移し煮あがった具も一緒に入れよく混ぜる。
⑦よく混ぜたらもう一度蒸し器に入れ10分位蒸す。

文(屋代幸子)

